

島根県立中央病院で診察を受けられる患者さんへ

当院では、以下の研究を実施しております。

本研究の対象者に該当する可能性のある方で、ご自身の試料・情報を研究目的に利用されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡ください。

ただし、すでに解析を終了している場合には研究データからあなたの情報を削除できない場合がありますので、ご了承ください。

研究題目	RSV 感染症の流行状況サーベイランスと病像に関する検討
研究期間	2019年5月7日 ～ 2023年12月31日
対象患者	2002年4月1日 ～ 2019年5月31日の間に 発熱、気道症状を訴え当院を受診した16歳未満(中学生以下)の患者さんのうち、RSV ※ ¹ 感染症を発症した(臨床診断および簡易RSV抗原検査で陽性)患者さん(対象群) と、アデノ抗原、インフルエンザ抗原、ヒトメタニューモウイルス抗原のいずれか が陽性と診断された患者さん(比較群) ※ ¹ :RSウイルス
調査対象期間	2002年4月1日 ～ 2022年12月31日
研究機関の名称	島根県立中央病院
研究責任者	小児科 金井 理恵
意義・目的	従来、RSV感染症は、10-12月に流行のピークを迎える気道感染症と考えられてきました。しかし、近年流行時期が変化し、重症化予防のためのパリビズマブ(シナジス®)投与を行います。適切な開始時期・終了時期について、地域ごとに異なっており、流行状況に応じて検討すべきと2018年のガイドラインの改訂でも明記されました。 そこで本研究において、RSV感染症の流行状況サーベイランス(動向調査)と病像を明らかにすることで、パリビズマブ(シナジス®)の適切な開始時期・終了時期、さらにパリビズマブ(シナジス®)投与の効果を検討します。 また、10-12月に流行のピークがあった過去と近年の病像、病態を比較することで、流行状況変化の要因を探ります。
研究の方法 (試料・情報の利用方法・他施設への提供方法を含む)	電子カルテ等を利用して、「利用する試料・情報の項目」に示す項目を抽出します。抽出データを基に、RSV感染症を発症した患者さん(対象群)とRSV感染症を発症しなかった患者さん(比較群)の2群に分け、推移、流行状況を比較します。対象群について、統計処理により病像分析を行います。
利用する試料・情報の項目	識別コード、性別、生年月日、出生在胎週数(週、日)、年齢、出生体重、入院・外来の別、身長、体重、合併症、既往歴、入院歴、現病歴、前治療、パリビズマブ(シナジス®)の投与の有無、RSV感染症発症日、アデノウイルス感染症発症日、インフルエンザ発症日、ヒトメタニューモウイルス感染症発症日、症状(症状の種類、気道症状の有無・期間、発熱の有無・持続期間、そのほかの症状の有無・期間) 等
試料・情報の提供の有無	試料・情報の他施設への提供 あり・ なし (ありの場合、海外の施設への提供 あり・なし)
個人情報の保護	当院における個人情報保護の基本方針に準じて行います。
結果の公表	投稿論文として公表します。
備考	

***** お問い合わせ先 *****

島根県立中央病院

小児科 金井 理恵

電話：0853-22-5111
